サロンあがたの森　　第189回

# 絵の見方
## ～いい絵を見分ける方法とは？

| | |
|---|---|
| 話題提供 | **大竹 永明**さん（東御市梅野記念絵画館館長） |
| 日　時 | **6月12日(土)**　午後1時30分 ～3時30分（予定） |
| 会　場 | あがたの森文化会館 講堂 **第一会議室**　参加費 200円 |
| 定　員 | **先着40名**　（電話での事前申し込みが必要です） |

絵が好きな人はたくさんいますよね。絵に囲まれた生活は人生を豊かにし、潤いを与えてくれます。皆さんそれぞれ美術館に足を運んだり、画集を見たり、自宅に絵を飾って楽しまれていることと思います。

そうした美術鑑賞を趣味とされている皆さんや、絵を買って楽しんでいらっしゃる皆さんも、自身の絵の見方については不安に思っていらっしゃる方が多いのではないかと思います。

わたしも美術書や画集などを読みまくりましたが、そういったことにふれた書物はほとんどありません。そこには作家の業歴や背景、様式や画風などについては触れられていますが、絵それ自体の差異については、その作家の感性の領域に踏み込むことになったり、受け取る側の理解度の違いにもよるので書きにくいことなのかと思います。

それこそ星の数以上に巷間に出回っている絵にも、やはり厳然といい絵とよくない絵があります。有名な画家の絵だから、高額な絵だからいい絵なのではありません。ピカソや梅原龍三郎にも駄作があります。無名の、そして子どもの絵にもいい絵はあります。レストランやお店屋さんに入って壁に掛かっている絵を見て、こんな絵だったら飾らない方がいいのにと思うことも多々ありますし、一方でいい絵があるゆえに品のいい店だなと思うこともあります。

絵は物理的にものを言いませんが、絵から発する作者のメッセージを受け取ることができれば、絵はさらに楽しくなります。

わたしにも、すべての絵が分かるとは思っていませんが、それでも美術の世界に入って30余年経て、わたしが学んだこと、経験的に得たことを、絵の好きな皆さんにお伝えできればと思っています。

大竹永明(おおたけ·ながあき)さんは1959年、松本市生まれ。松本市役所に勤務し、在職38年間のうち、主に教育委員会で美術館や博物館の学芸員を務めるなど文化行政に長く携わり、2020年3月末に定年退職。現在は東御市の梅野記念絵画館館長を務めている。

☆テーマに沿って話題提供者の話のあと、気楽に懇談。自由にご参加ください。

**主催 サロンあがたの森実行委員会　共催 旧制高等学校記念館・記念館友の会**

**申込み・問合せ　旧制高等学校記念館　☎ ３５－６２２６　FAX ３３－９９８６**